

はしがき

本報告書は、神戸大学大学院国際文化学研究科異文化研究交流センター（Intercultural Research Center、通称 IReC [アイレック]）の 2011 年度プロジェクト「ヨーロッパにおける多民族共存と EU——言語、文化、ジェンダーをめぐって」、および IReC 研究部との連携事業である神戸大学主催国際ワークショップ「日欧関係の歴史・文化・政治」の活動をもとに編集した。

1. 本年度のプロジェクトについて

プロジェクト名：ヨーロッパにおける多民族共存と EU——言語、文化、ジェンダーをめぐって

代表者：坂本千代（地域文化論講座）

分担者：三浦伸夫（異文化コミュニケーション論講座）
石川達夫（地域文化論講座）
藤野一夫（現代文化論講座）
岩本和子（現代文化論講座）
坂井一成（異文化コミュニケーション論講座）
松井真之介（神戸大学非常勤講師）
寺尾智史（異文化研究交流センター協力研究員）
植朗子（異文化研究交流センター協力研究員）

ヨーロッパを対象としたプロジェクトが 4 年目を終えることができた。基本的にはこれまでの 3 年間（「多言語・多民族共存と文化的多様性の維持に関する国際的・歴史的比較研究」「ヨーロッパにおける多民族共存と EU——多民族共存への多視点的・メタ視点的アプローチ」「ヨーロッパにおける多民族共存と EU——その理念、現実、表象」）の蓄積を踏まえ、今年はサブタイトルに「言語」「文化」「ジェンダー」を出して、言語・文化に関する研究を深めるとともにジェンダー分野の研究も付け加えた。

プロジェクトの活動

主なものは以下のとおりである。

- ・ヨーロッパにおける多民族共存や多文化共存が芸術作品や文化活動にどのように影響しているかをベルギーなどを例として分析・考察した。
- ・ヨーロッパの国々において多民族共存、マイノリティと少数言語保護がどのように行われているかをフランスなどを例として分析・考察した。
- ・外部から研究者を招いて、オランダ、イタリア、ベルギーなどにおける文化やジェンダーの諸問題に関する講演をしていただいた。

2011 年度に本プロジェクトが行った講演会および研究セミナーは以下のとおりである。

- 1) 2011 年 7 月 14 日（木）講演会「EU における音楽活動の現状」（講師：正木裕子、日野原秀彦）
- 2) 2011 年 12 月 22 日（木）研究セミナー「ベルギーにおける多文化共存の諸相」（講師：三田順、岩本和子）

- 3) 2012年1月24日(火) 研究セミナー『『組み合わせ』の技法——オランダ社会におけるワークライフバランスの実践』(講師: 中谷文美、コメンテーター: 青山薫)
- 4) 2012年2月10日(金) メディア文化センターとの共催セミナー「3.11以後の思想——アドルノの『否定弁証法』に即して」(講師: 高橋順一)
- 5) 2012年2月13日(月) 研究セミナー「フランスのマイノリティにおける言語教育——ブレイス語のディワン学校と在仏アルメニア学校を例に」(講師: 松井真之介)

2. 国際ワークショップについて

IReC 研究部プロジェクトメンバー坂井一成准教授の企画による、神戸大学主催で IReC 研究部との連携事業である国際ワークショップ「日欧関係の歴史・文化・政治」が2012年3月6日(火)にベルギーの神戸大学ブリュッセル・オフィス (KUBEC) で開催された。

本ワークショップは、神戸大学の「2011年度ブリュッセルオフィスを拠点とするワークショップ等助成事業」として支援を受けて実施したものであり、神戸大学創立110周年記念事業の一環にも位置づけられた。国際文化学研究科としては、ブリュッセルオフィスのオープニング記念事業の一環で、2010年度にも国際ワークショップ「ヨーロッパ統合の基層における文化の役割」を昨年3月5日にブリュッセル自由大学 (ULB) を会場に実施しているが、今回のワークショップも同様にブリュッセルオフィスを拠点として、日欧間の人文社会系分野における研究交流を促進するための事業として企画されたものである。

今年度は日本研究及び日欧関係を題材に、ヨーロッパの研究者で日本を専攻している方から報告を頂き、それに日本でヨーロッパを研究している研究者が議論を投げかける形で、相互理解を促しながら新たな課題や問題視角の発見を目指すものであった。

講演者として招聘したのはベルギー、スペイン、イタリアの研究者である。ベルギーからは、国際文化学研究科が大学院博士前期課程でのダブルディグリー協定を結んだパートナーでもあり、今後さらなる研究教育交流が見込まれるルーヴァン・カトリック大学 (KUL) の日本学科の主任教授であり、2006年には長年の日本研究と日本理解のための教育の功績を称えられて日本政府から旭日中綬章を受章したヴィリー・ファンデヴァーレ (Willy F. Vande Walle) 氏を招いた。スペインからは、慶應義塾大学で日本外交史を専攻した新進気鋭のカタロニア放送大学准教授リュック・ロペスヴィダル (Lluc López Vidal) 氏を、イタリアからは、一橋大学で学んだ後、ヨーロッパにおける日本研究の一つの拠点となっているナポリ東洋大学アジア学部で准教授を務め、日本外交・国際関係論を講じているノエミ・ランナ (Noemi Lanna) 氏を招いた。そして神戸大学からは EU の対外政策研究を専攻する坂井准教授のほか、IReC 研究部プロジェクトメンバー岩本・寺尾・坂本がパネリストとして参加し、その他の神戸大学教職員、在欧州神戸大学生、ヨーロッパの日本学専攻学生など総勢20数名が集まった、非常に密度の濃い研究集会であった。

本報告書では、同ワークショップのプログラム、3人の講演者の論文(ワークショップでの発表はこれにもとづいたものであった)、坂井代表の「総括」を掲載している。

以上のように本年度は実り多い活動ができ、今後の展望が大きく開けた年であった。関係各位に心からお礼申し上げます。

坂本千代 (国際文化学研究科教授・
異文化研究交流センター研究部長)